

タイ、ベトナム、インドにおける 持続可能な観光の実現に向けた調査



2025年4月17日(木)

運輸総合研究所 前アセアン・インド地域事務所 研究員 重松 依里
(現 国土交通省 観光庁 観光戦略課観光統計調査室 係長)
運輸総合研究所 研究員 岡田良子

第一章 | 調査概要

第二章 | 調査方法

第三章 | 調査結果

I. 各国の持続可能な観光をめぐる政策と主な課題の整理

II. タイ、ベトナム、インド

(1) 基礎情報

(2) 持続可能な観光に関する政策

(3) 持続可能な観光に関する主要課題

(4) 政策や推進体制に関する推奨事項

(5) 持続可能な観光に関する取組事例

第四章 | 今後の進め方

第一章 | 調査概要

背景

- ✓ 近年、観光分野では、持続可能な観光に向けた取り組みの重要性に対する理解が進み、各国で様々な取り組みが推進されているところ
- ✓ 一方でオーバーツーリズムの問題が発生、交通渋滞や混雑などの問題、文化資源への影響など地域によりさまざまな課題や問題に直面
- ✓ 運輸総合研究所では、持続可能な観光の実現に向けた取り組みを加速させ、実効性のある取り組みに資するよう、2023年度にタイ及びベトナムでシンポジウムを開催。更に2024年度は、タイとは定期的に観光WGを、ベトナムとはワークショップを開催

目的

- ✓ そこで得られた議論も活用しながらASEAN地域での適用可能性を探ることを目的に、調査を実施

第二章 | 調査方法

- ✓ 調査対象国(タイ、ベトナム、インド)における持続可能な観光に関する取組や課題についてデスク調査やヒアリング調査を実施
- ✓ 持続可能な観光に関して課題として挙げられる①地方分散、②環境・文化財の保護と観光の両立、③観光分野における環境へ対応を主要課題として仮定し調査を実施

調査の共通事項・主要課題	調査項目	デスク調査	ヒアリング調査
	基礎情報		
	GDP、観光客数、移動手段、同行者数、観光目的	☑	☑
	持続可能な観光に関する政策		
	各国・地域の持続可能な観光に関する政策と目標	☑	☑
	政策の進捗と課題(社会、経済、環境)	☑	☑
	民間による持続可能な課題、役割など	☑	☑
	①地方分散		
	一部観光地への観光客・観光収入の集中(オーバーツーリズム含む)	☑	☑
	地方分散のためのアクセスの問題	☑	☑
	地方観光地の受入体制やインフラ整備等の問題	☑	☑
	②環境・文化財の保護と観光の両立		
	各国のユネスコ世界遺産、主な自然資源	☑	☑
	自然資源、文化財を巡る課題(環境汚染、文化財の毀損など)	☑	☑
	適切なキャパシティ管理や資源保護のための財源確保の問題	☑	☑
	③観光分野におけるカーボンニュートラル		
	2050年のカーボンニュートラルに向けた観光分野の現状や目標	☑	☑
	観光客増加によるGHG排出量の増加、ごみ増加などの問題	☑	☑
	事業者や旅行者等のカーボンニュートラルへの認識不足の問題	☑	☑

ヒアリング調査のインタビュー先

【タイ】

政府機関 観光スポーツ省(MOTS)
持続可能な観光のための指定地域管理局
(DASTA)
民間事業者 センタラホテルズ& リゾーツ

【ベトナム】

政府機関 ベトナム観光開発調査研究所(ITDR)
民間事業者 Thien Minh Group(TMG)

【インド】

政府機関 インド観光省
民間事業者 Green Dreams for the Planet

【グローバル】 太平洋アジア観光協会(PATA)

第三章 | 調査結果：I.各国の持続可能な観光をめぐる 政策と主な課題の整理

I.各国の持続可能な観光をめぐる政策と主な課題の整理

		タイ	ベトナム	インド
政策	計画等	第3次国家観光開発計画(2023-2027)	観光開発計画(2020-2030)	・インド国家観光政策(2002-) ※新国家観光政策案発表(2022) ・インド持続可能な観光戦略
	持続可能な観光に関する主な目標	・テクノロジー等を活用したキャパシティ管理による集中抑制、文化とアイデンティティの保存・発展 ・ゴミや汚染の削減、天然資源や環境保護のための体系的な管理	・官民連携とガバナンスモデルの促進 ・コミュニティベースドツーリズム(CBT)開発 ・文化・歴史の保存と文化観光商品開発 ・観光活動、観光資源、汚染制御へのデジタル技術活用	・国の文化的および自然的資源を保護し強化すること ・国内における持続可能で、責任ある、包括的な観光の発展を確保すること
	主なKPI	・観光業のGHG排出量を毎年2%削減 ・GSTC基準を満たす観光地・事業者を25%増加 ・観光投資に占める文化投資の割合増加	・外国人旅行者数5000万人 ・雇用創出850万人 ・持続可能な観光に関するKPI —	・2030アジェンダとの整合性 ・生物多様性の保全と持続可能な土地利用 ・エネルギーと水の利用効率 ・温室効果ガス排出量と廃棄物削減 ・数値目標や達成期限 —
	進捗状況	・2024年度20機関が733のプロジェクトを報告		・政府は固定政策より市場対応型、関係者協議を優先
主な課題	社会	・外国人観光客の9割が主要観光地に集中 ・一部観光地でのオーバーツーリズム	・急速な観光開発・経済発展に伴うインフラ整備の促進 ・オーバーツーリズム	・観光インフラの整備の促進 ・交通インフラの整備の促進
	経済	・観光収入の9割が主要観光地に集中 ・観光収入の伸び悩み、海外流出	・インバウンド急増に伴う国内市場価格の高騰 ・観光の恩恵を受けない地元住民の生活困窮	(取組)・国内外の投資と資金調達 ・規制緩和と民間セクターの主導 ・中小企業やスタートアップ支援
	環境	環境への影響 ゴミ問題、観光客による自然資源の汚染・破壊、GHG排出量高割合、排水放出	環境への影響 ゴミ問題、下水処理、自然生態系、GHG排出量増加	・環境の持続可能性の促進 ・生物多様性の保護
	その他の主な課題・取組	(取組) ・国立公園の事前予約システム・電子チケット導入 ・デジタル技術を活用したキャパシティ管理 2025年度全国立公園でE-National Parkシステムを導入予定	・スマート観光エコシステムの開発(検索～決済等) ・電子決済の普及率の向上 ・人材育成	(取組)・デジタル化と新技術による競争力向上 ・スマートデスティネーションの実現 ・観光ホスピタリティ人材の育成
	財源	・文化関係の投資促進 (取組)・国立公園で入場料収受	・文化遺産保存の財源不足 (取組)(ホイアン市では観光チケット・旧市街入場料を文化遺産保存に充当)	・中央政府と地方政府は持続可能な観光とインフラに補助金などを投資 (取組)・公共投資と民間投資
	独自ラベル	・タイ独自の観光産業向け認証「STAR」 ・レストランや観光施設向け「EEEレーティング」	・既存のラベル「グリーンロータスラベル」認知・活用度の向上	— (国際認証(GSTC認証、Green Globe、EarthCheck等)のラベルを使用されている場合がある)
	ガイドライン	・持続可能な観光管理基準「STMS」(GSTC認定)	・グリーンツーリズム開発のクライテリアを作成中	・インド持続可能観光基準(STCI)

第三章 | 調査結果: タイ

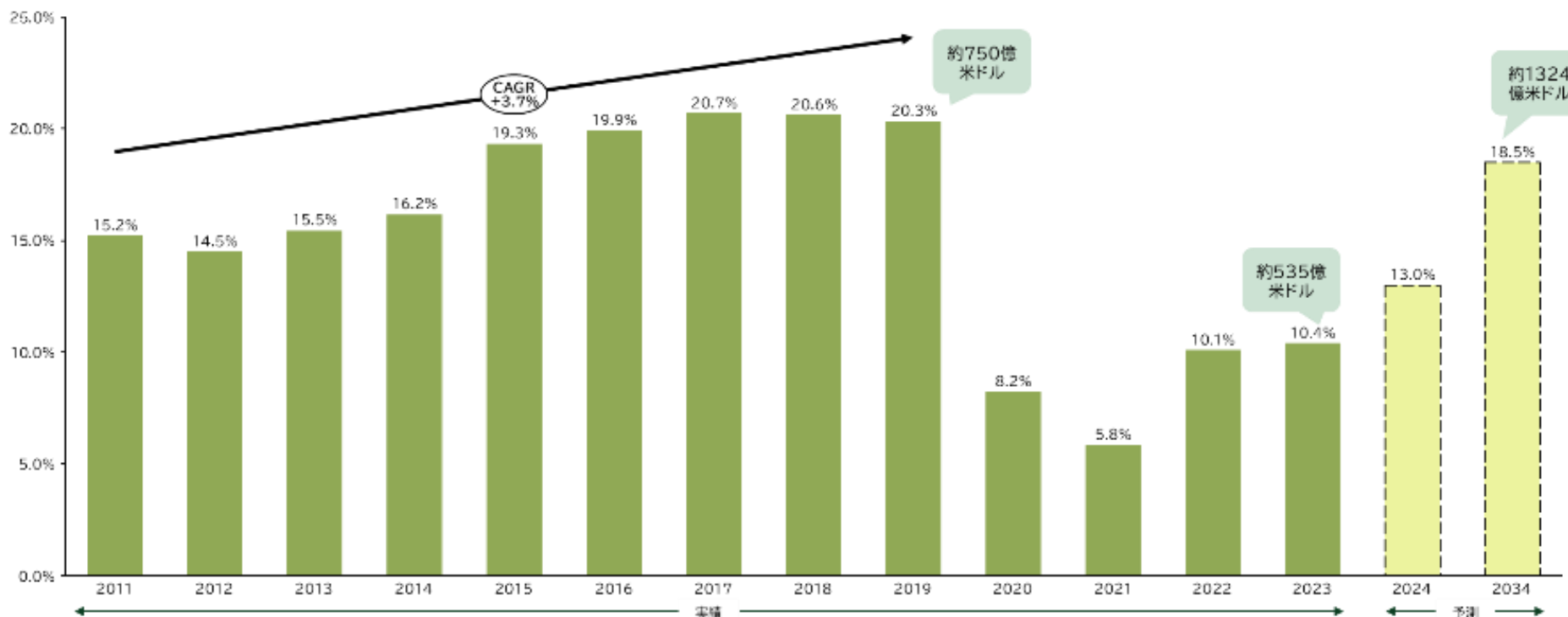




(1)基礎情報

- ✓ 観光産業が国全体のGDPに占める割合は、2023年に約10%まで回復(パンデミック前は20%超)
- ✓ 予測期間中のタイの観光産業は、タイ経済の観光産業と民間消費の主な成長要因を背景に、年率6.7%で拡大すると予測

タイにおける観光産業のGDP貢献額の推移 (総数、単位:%)



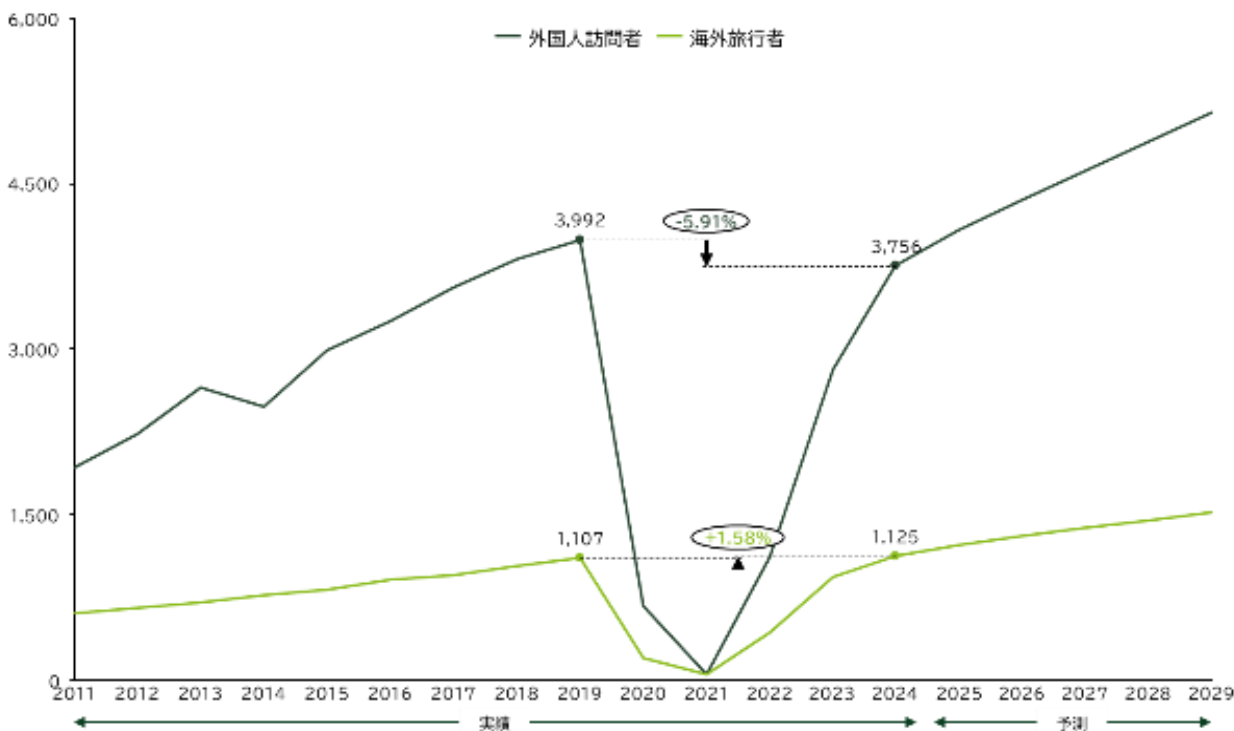
出典: WTTC



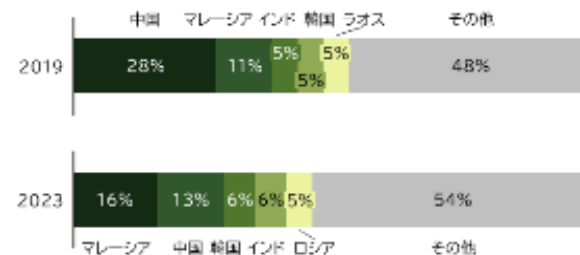
(1)基礎情報

- ✓ タイへの外国人旅行者は2024年に約3600万人*まで回復した。予測期間中は世界的な旅行市場や主要送客元経済の回復を背景に、更に成長すると予測
- ✓ タイ人の海外旅行者数は2024年は約1120万人、予測期間中までに1,500万人に増加すると予測

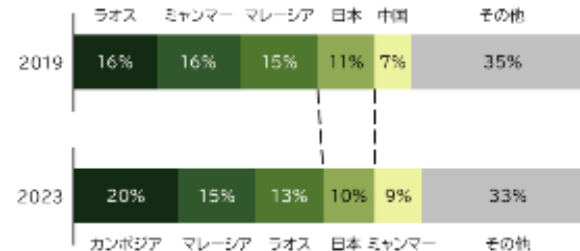
タイにおける国際旅行者数の推移 (総数、単位:万人)



外国人訪問者のソースマーケット



海外旅行者の目的地



出典: Euromonitor, WTTC

(2)持続可能な観光に関する政策

- ✓「第13次国家経済社会開発計画」
 マイルストーン:持続可能な品質重視の観光目的地に
 目 標:観光セクターの持続可能な管理
- ✓「第3次国家観光開発計画」 目標:持続可能な観光経営

国家戦略・観光政策

第13次国家経済社会開発計画(2023-2027)

マイルストーン

- ✓ タイを持続可能な品質重視の観光目的地に

目標

- ✓ 質の高い観光業に転換
- ✓ 国内旅行の強化、地方観光地への収入分配
- ✓ 観光セクターの持続可能な管理

第3次国家観光開発計画(2023-2027)

主な目標

- ✓ 観光業のレジリエンス強化とバランスの再調整
- ✓ コネクティビティとインフラストラクチャーの改善
- ✓ 経験を重視した高付加価値な観光体験
- ✓ 持続可能な観光経営

ミッション

- ✓ 供給強化、バランスある分配、観光収入の海外流出削減
- ✓ 観光地、交通、観光施設のインフラ整備と人材育成
- ✓ 観光体験の開発強化、新たなMarketing Communication
- ✓ 持続可能性の推進、自然や文化、アイデンティティの保護

持続可能な交通システムのための マスタープラン(2013-2030)

目標

- ✓ 交通部門からの温室効果ガス排出削減

戦略

- ✓ 組織と人員の能力向上
- ✓ 計画の実装と監視のためのメカニズム確立
- ✓ 包括的かつ相互接続された交通インフラの確立
- ✓ 持続可能性と温室効果ガス削減のための効率的な輸送管理
- ✓ 環境に優しいイノベーションと技術の採用促進
- ✓ 環境に対する国民の意識向上

気候変動政策

気候変動マスタープラン(2015-2050)

ビジョン

- ✓ 気候変動の影響を受けない低炭素成長の実現

ミッション

- ✓ データベースと技術開発
- ✓ 気候変動への適応力向上
- ✓ 温室効果ガスの排出削減
- ✓ あらゆるレベルで気候変動への意識向上

NDC (Nationally Determined Contribution)

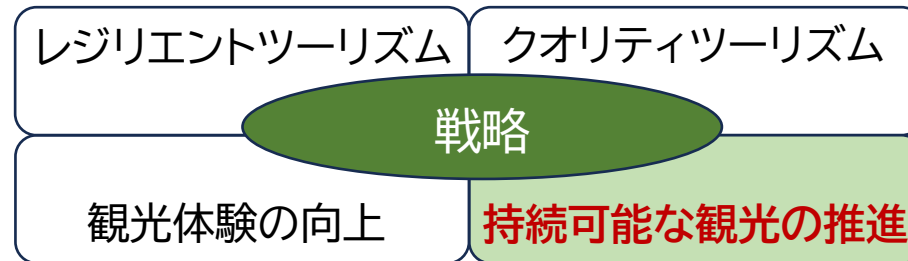
目標

- ✓ 2030年までに予測される通常業務レベル(BAU)(2005年基準)に比較して、GHG(温室効果ガス)排出量を30%削減
- ✓ 技術開発、資金源、能力構築などへの国際支援がある場合の条件付き目標として、2030年までにGHG排出量を最大40%まで削減
- ✓ 2050年までのカーボンニュートラル
- ✓ 2065年までに温室効果ガス排出量のネットゼロ

(2)持続可能な観光に関する政策

- ✓ 目標:テクノロジー活用による観光地への集中緩和、地域の文化やアイデンティティの保護と高付加価値化、環境保護の強化 等
- ✓ KPI:温室効果ガス・廃棄物毎年2%削減、GSTC基準を満たす観光地等を毎年5%増加、ユーロモニターの持続可能な観光インデックス50位以内 等

第3次国家観光開発計画(2023-2027)



持続可能な観光の目標

- ✓ 効率的な観光管理にテクノロジーとイノベーションを活用し観光地への集中緩和
- ✓ タイの文化、伝統、生活様式、アイデンティティを保護し付加価値を高める
- ✓ 無駄を排除し、汚染を削減し、天然資源や環境への影響を軽減するための体系的な管理を行う
- ✓ 自然、文化、コミュニティの観光名所は、国際的な持続可能な基準を満たす

持続可能な観光のKPI

温室効果ガス・廃棄物の発生:毎年2%削減

GSTC基準を満たす観光地・事業者(対23年):
24年10%増、以降毎年5%増加

Euromonitor Sustainable Travel Index:27年50位以内

文化関係投資累計額割合:23年1.7%増、以降毎年2%増加



(3)持続可能な観光に関する主要課題

地方分散

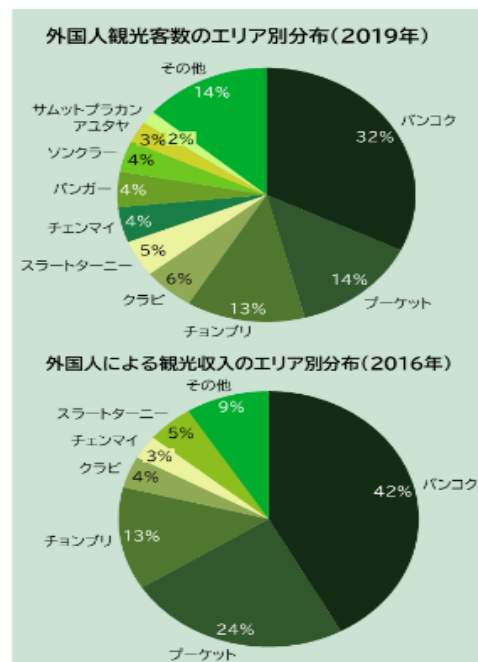
環境・文化財の保護と観光の両立

観光分野における環境への対応

- ✓ 主要観光地への集中
- ✓ バンコクでの慢性的な渋滞、ロケ地でのオーバーツーリズムなどの問題が散見
- ✓ 地方分散の促進には、地方への交通アクセス整備、観光地のキャパシティー管理、訪問者数に応じたインフラ整備等への対応を求める声

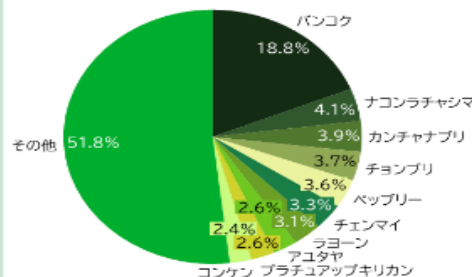
地方分散(一部観光地への集中、オーバーツーリズムの問題など)

外国人観光客は9割が主要観光地に集中

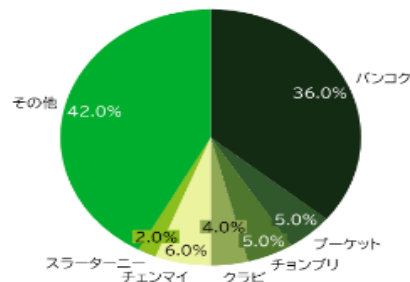


出典:タイ観光スポーツ省、JICA、the Guardian

タイ人観光客数のエリア別分布(2019年)



タイ人による観光収入のエリア別分布(2016年)



主要観光地への集中に伴う問題

バンコクの慢性的な渋滞

- ✓ バンコクは慢性的な交通渋滞に悩まされている
- ✓ タイ政府と国際協力機構(JICA)などが協力し、「Thailand4.0を実現するスマート交通戦略」実証実験を実施(2018年6月~2023年6月)

JICA、渋滞対策に4つのアプローチ

- ① 次世代型電動ミニカー
- ② アプリで車を手配するスマート交通
- ③ 車や人の流れ、公共交通機関の状況などのデータでシミュレーション
- ④ 時空間データの見える化



JICAホームページより

ロケ地でオーバーツーリズム

- ✓ ビビレイ島・マヤ湾では、映画「ビーチ」公開を契機に生態系破壊やオーバーツーリズムが発生し、3年半にわたって観光客の受入を停止した



環境と観光の両立のための持続可能な観光客受入手法に関する調査業務報告書(国土交通省)より

- ✓ 米国ケーブルテレビ放送局HBOのオリジナルドラマ「ホワイト・ロータス」諸事情だらけのリゾート」シーズン3は、2024年にタイで撮影、2025年に放送予定
- ✓ 撮影地はバンコク、プーケット島、サムイ島などの予定
- ✓ 英ガーディアン紙は観光客数と自然資源の保護のバランスをどう取るかが課題と指摘(2023年6月1日号)



(3)持続可能な観光に関する主要課題

地方分散

環境・文化財の保護と観光の両立

観光分野における環境への対応

✓ 地域住民への被害や海洋プラスチックごみの生態系への悪影響を懸念

観光客の増加によるごみ処理問題

サムイ島のゴミ問題、井戸水の汚染も

<課題>

- ✓ タイ南部の人気リゾート、サムイ島のごみ問題は、日本のTVニュースで報じられたことで注目される(2018年)
- ✓ サムイ島ではごみ焼却場が故障して以来、毎日150万トンずつゴミが山積みされていた
- ✓ サムイ島のごみ処分場周辺に住む住民は、ごみの悪臭と井戸水の汚染によって被害を受けているとして、市や県にごみの撤去を求めて裁判を起こす



JICAホームページより

プラスチックごみによる海洋汚染

海洋プラスチックごみ、年間28万トン

<課題>

- ✓ 適切な廃棄物管理が行われておらず、タイでは河川等を通じて海洋に流出するプラスチックごみは年間約28万トンと推計
- ✓ 海洋プラスチックごみは、生態系を含めた海洋環境の悪化、船舶航行への障害、観光・漁業への悪影響、沿岸域居住環境の悪化等の被害が懸念される

調査

- JICAは、海洋プラスチックに係る学術的センター(センターオブエクセレンス(COE))を設立し、タイのチョンブリー県サタヒップ郡サマーサン地域で調査事業を実施中

JICAによる調査事業

<課題と目的>

- ✓ 海洋プラスチック汚染は早急な対策が求められる深刻な環境問題だが、流出経路、分布、海域への現存量などが十分わかっていない。COE設立により、東南アジア海域における海洋プラスチックのモニタリング・管理枠組を確立する。



(3)持続可能な観光に関する主要課題

地方分散

環境・文化財の保護と観光の両立

観光分野における環境への対応

- ✓ 観光産業のGHG排出量は総排出量の11.76%を占め、ホテルやレストランから放出される未処理水、ゴミの増加は環境に影響を与えている
- ✓ 観光業の持続可能性に関する国際指標(例:Euromonitor持続可能な旅行インデックス76/99位)は低く、政府は海洋汚染、ゴミ問題、天然資源の破壊などの課題を認識

タイの観光産業のGHG排出量、総排出量の11.76%

タイの観光産業の温室効果ガスの排出量

- ・ タイの観光産業のGHG排出量は、CO2換算で総排出量の11.76%を占める
- ・ 観光産業からのゴミ・廃棄物の排出は、全体の2.77%を占める

タイの観光産業の環境コストと環境負荷(2018年)

コスト			TGDPシェア
	観光産業の環境コスト	2268億3300万バーツ	18.89%
環境負荷			セクター全体に占めるシェア
	水資源の使用量	7億4500万立法メートル	4.59%
	エネルギー使用量	5億2000万メガジュール	14.67%
	GHG排出量(CO2換算)	3060万トン	11.76%
	ゴミ・廃棄物発生量	80万7313トン	2.77%

*観光産業とは、1)飲食店2)宿泊施設3)自動車による旅客輸送4)航空輸送5)観光商品の販売

観光から生じる問題、未処理排水やゴミ問題など

海洋汚染やゴミによる自然破壊

観光から生じる問題

海洋汚染

ホテルやレストランが未処理の排水を違法に放出し、観光地や観光客に大きな影響を与えている

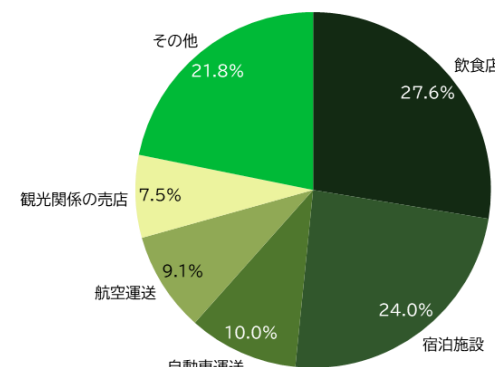
ゴミ

観光客と宿泊施設の増加に伴うゴミの急増が、観光客と地域の動物に有害な汚染を引き起こしている

観光客による自然の汚染・破壊

観光産業の分野別のゴミ排出量

- ・ 飲食店と宿泊施設のごみ排出量で計5割
- ・ 自動車運送、航空運送がそれぞれ約1割



第3次国家観光開発計画



(4)政策や推進体制に関する推奨事項

政 策

設定した目標やKPIに検証や改善の循環

幅広いステークホルダー間の連携強化

認証制度の利用促進と認知度アップ

中小企業の実践へ支援

地方分散

国内観光を地方分散のフック

適切なキャパシティ管理

環境・文化財の保護と観光の両立

環境・文化財保護への財源確保、投資比率高への取組

観光分野における環境への対応

観光分野のGHG削減へ取組指針

共 通

CBTは地方分散や文化・環境と観光の両立、環境への対応にも有効
セミナー等による関係者間の共有機会



(5)持続可能な観光に関する取組事例

(事例)地方分散

(事例)環境・文化財の保護と観光の両立

(事例)観光分野における環境への対応

コミュニティ・ベースド・ツーリズム(Community Based Tourism=CBT)

背景・課題

- ✓ 観光関連収入の9割が主要観光地に集中、観光客の地方分散により、地方で雇用を創出し、収入を分配し、格差を是正することにより社会的・経済的な課題解決を図る
- ✓ 住民生活の質を高め、地域社会を強化し、タイの文化や伝統の保存を促進
- ✓ 地方分散には、交通アクセスの整備、都市部に比べて地方部はゴミや排水の処理等社会インフラが弱い地域も多く、その整備も課題

取組

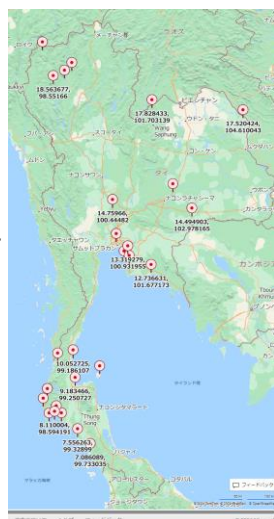
CBTで質の高い観光客を誘致

- ・「質」の高い観光客をタイに呼び込むため、MOTSの戦略の一環としてCBTを重視
- ・CBTは、地域社会に収入を分散させ、地域住民の生活の質を高め、地域社会を強化し、タイの文化や伝統の保存を促進することが目的
- ・CBTは、地域性の高い文化や遺産への理解を深め、ローカルな生活様式を体験できる観光形態



TATサイトより

CBTで地方分散



TATウェブ
サイトCBT
事例紹介

DAST
Aによる
CBT
の指定
地域

タイ全土で
26コミュニ
ティを紹介

9カ所の
指定地域

北部、東部、
中部、南部
とタイ全土
に分散

TATサイトに紹介されている
CBTの位置をマッピングして作成

取組の有効性

政府の重要発展基盤の位置付け

CBTは質の高い観光客を誘客する上での重要な戦略、かつ、観光業を強力かつ持続可能な形で発展させる上で重要な基盤としての位置付け

開発・管理基準の整備、関係機関の連携

CBTの観光開発基準や持続可能な観光管理基準「STMS」(GSTC認定取得)を設定し、DASTAの主導により、CBTの推進や持続可能な観光管理等に取り組む。また、TATがコミュニティへの誘客促進などの機能を担い、両輪で取組

成功事例の創出

ブリーラム県のバーン・コックムアン・コミュニティのように、社会・経済・文化・環境を両立できる成功事例も出てきている



(5)持続可能な観光に関する取組事例

(事例)地方分散

(事例)環境・文化財の保護と観光の両立

(事例)観光分野における環境への対応

CBT:チョンブリー県タキアンティア・コミュニティ

背景・課題

- ✓ 主に農業に依存しており、ココナッツ栽培が主な職業
- ✓ 名産品であるココナッツを活かし、12年前よりDASTA(持続可能な観光指定地域管理局)と協力して、観光開発を開始し、近年はCBTコミュニティの代表例として多くの観光関係者が視察に訪問

取組

- ・コミュニティのリーダーが存在し、提供するアクティビティの検討やコミュニティの住民の活躍の場を調整
- ・拠点となるバーン・ロイサオ・カルチャーセンターは102本の柱により支えられた伝統的な家屋で、来訪者の歓迎、現地の工芸品等やココナッツ製品の販売、料理教室等のアクティビティを提供
- ・3～4年ほど前から地域でホームステイも提供



コミュニティからの歓迎



名産ココナッツを使った各種体験

取組の有効性

地域と政府関係機関との連携が功奏

コミュニティとDOT、DASTA、TATが連携

地域資源の保護

地元名産ココナッツの栽培～利用・販売の好循環

住民の参加

地元の主婦等がプログラム等の提供者として参加

コミュニティの雇用創出&収入配分

観光活動をコミュニティの資源に合わせて調整し、その結果、コミュニティは雇用を創出し、収入を得ることに成功

認知度向上

2025年にASEAN COMMUNITY BASED TOURISM (CBT) STANDARD Awardを受賞し、東南アジアにおける観光サービスや観光商品が評価され、ASEANの基準に従って観光業を発展させる機会を政府や民間部門に提供。



(5)持続可能な観光に関する取組事例

(事例)地方分散

(事例)環境・文化財の保護と観光の両立

(事例)観光分野における環境への対応

国立公園

背景・課題

- ✓ 自然資源に対する世界的な評価は高く、世界経済フォーラムの2021年「旅行・観光開発ランキング」でタイの天然資源は世界14位、一方で、「環境の持続可能性」は97位と評価が低い
- ✓ 多数の観光客の受入により、環境保護と観光の両立、そのための財源確保及び予算使途の透明性確保が課題
- ✓ 島しょ部にある海洋国立公園は環境面、インフラ面ともに弱い傾向にあり、受入可能なキャパシティを把握・管理していくことが課題

取組

電子チケットを導入(2021.1~/6か所)

- ・電子チケットとオンライン事前予約を導入
- ・タイ人と外国人の観光客は別料金設定



E-National Parkシステムの開発

- ・国立公園・野生生物・動物保護局は、2025年度までに全国の国立公園エリアで「E-National Parkシステム」を開発する計画
- ・国立公園への入場券だけでなく宿泊予約やその他関連サービスを一元的にシステム上で予約できるようにする計画

受入シーズンの限定による環境負荷低減

環境面やインフラ面の対応力が弱い島しょ部の海洋国立公園では、観光客の受入シーズンを限定することで環境負荷の低減を図る

例)シミラン諸島10月～5月上旬、ピピ諸島10月～7月

取組の有効性

入場料受領の透明性・収入増加

電子チケットとオンライン事前予約システムの導入により以前よりも入場料収受の透明性が増したほか、ピピ諸島海洋国立公園では入場料収入の増加にもつながったとされる

観光消費への期待

国立公園を対象に「E-National Parkシステム」が開発されれば国立公園を訪れる旅行者が関連サービスによりアクセスしやすくなるメリットがあるほか、国立公園関連の観光消費を押し上げる効果も期待

環境負荷軽減への期待

・一部の島しょ部では観光客の受入シーズンを限定することで、環境負荷を一定程度低減する効果があると考えられる

・政府で国立公園のルールを定め、プラスチック製の容器や有害なゴミの持ち込み制限、ゴミを分別し指定されたゴミ箱に捨てること等を観光客に呼びかけている



(5)持続可能な観光に関する取組事例

(事例)地方分散

(事例)環境・文化財の保護と観光の両立

(事例)観光分野における環境への対応

ナーン旧市街 廃棄物管理の取組事例

背景 課題

- ✓ 主に夜間と週末にオーバーツーリズムに直面し、旧広場で週末に屋外市場を開設したところ、ゴミの種類や発生量が急増。

取組

発泡スチロール容器の使用禁止

生分解性の紙製容器の使用を決定

リサイクルの促進

- ・廃棄物を9種類に分類。
- ・分別ポイントでは、地元の高齢者にボランティアとして参加してもらい、適度な収入を得る機会を提供

運営基金の設立

自治体は、リサイクル可能な廃棄物の売上と露店の使用料を基に基金を設立



GSTCサイトより(Green Destinations提供)

取組の有効性

ごみの削減

1日の残余ゴミは1～1.5トンから約0.2トンに減少

地元住民(高齢者)の雇用機会創出

費用のかかる新しい廃棄物管理システムを導入することなく、高齢者に廃棄物削減に貢献してもらうことで、高齢者の雇用を創出

運営資金の創出

自治体は、リサイクル可能な廃棄物の売上と露店の使用料によって設立された基金を通じて、ボランティアへの報酬を維持

第三章 | 調査内容:ベトナム





(1)基礎情報

- ✓ 観光産業が国全体のGDPに占める割合は、2023年に約6.8%とパンデミック前の水準までほぼ回復
- ✓ 予測期間中までにベトナムの観光産業は約8%を占めると予測

ベトナムにおける観光産業のGDP貢献額の推移 (総数、単位:%)



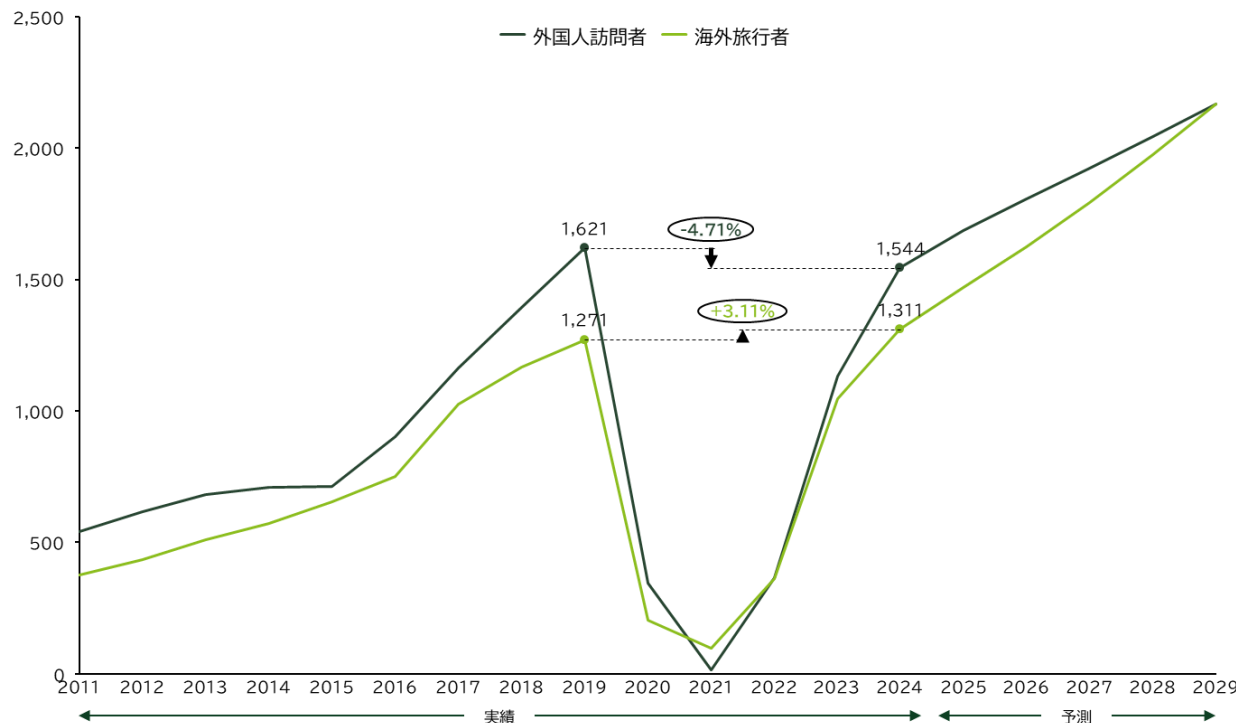
出典: WTTC



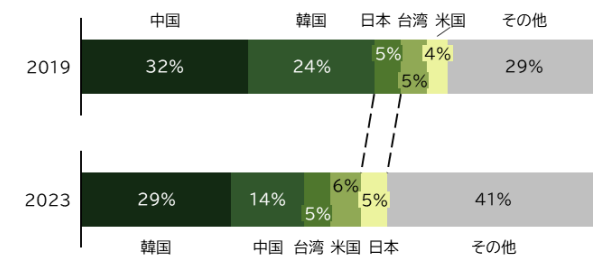
(1)基礎情報

- ✓ ベトナムへの外国人旅行者は2024年に約1544万人まで回復(対2019年約5%下回った)
- ✓ ベトナム人の海外旅行者数2024年に1311万人に達し予測期間中までに10%の成長を予測

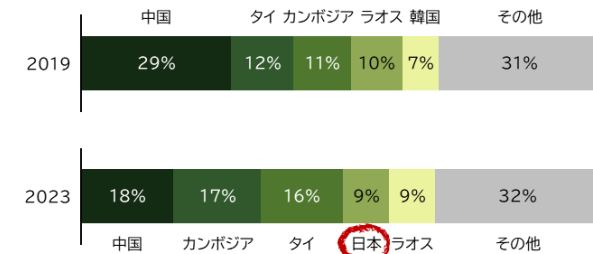
ベトナムにおける国際旅行者数の推移 (総数、単位:万人)



外国人訪問者のソースマーケット



海外旅行者の目的地



出典: Euromonitor, WTTC



(2)持続可能な観光に関する政策

- ✓「国家観光戦略2030」 経済分野の重要セクターであり、SDGsへの貢献、文化観光の開発、高品質な観光開発、海外・国内旅行者向けの観光商品開発の促進に注力
- ✓「2050年を見据えたグリーン成長戦略」 雇用、健康、観光などの社会分野でのグリーントランスフォーメーションに係るプロセスを迅速化

国家戦略・観光政策

国家観光戦略(2021-2030)

- 2020年1月発表
- 主な観点**
- ✓ 経済成長を牽引する重要な経済分野
 - ✓ 持続可能で包括的な観光開発を推進し、SDGsへ最大限に貢献
 - ✓ 遺産と文化的アイデンティティの保護を通して文化観光の開発に焦点
 - ✓ 高品質な観光の開発、質の高い人材育成に注力
 - ✓ 観光産業の競争力を強化し、外国人・国内旅行者を対象とした観光開発の促進

2045年を見据えた観光システム計画(2021-2030)

- 2025年2月決定
- 観光開発の視点**
- ✓ 観光の先導的役割を継続的に確認
 - ✓ 文化的価値観を基礎として重視し、企業やコミュニティの推進力を促進
 - ✓ 品質と国際競争力に向けて重点的に投資
 - ✓ **持続可能**かつ創造的な観光の開発
 - ✓ デジタル変革、科学技術を重視し、人的要因を促進
 - ✓ リスクへの対応

目標値		
項目	2025年まで	2030年まで
外国人旅行者数(万人)	2,500-2,800	3,500
国内旅行者数(万人)	13,000	16,000
観光収入(億US\$)	483	1,005
観光収入のGDPに占める割合(%)	8-9	13-14
雇用創出(万人)	630	1,050

気候変動政策

グリーン成長戦略(2021-2030)

全体目標

- ✓ 成長モデルの刷新と併せて、経済の再構築に貢献
- ✓ グリーンでカーボンニュートラルな経済に向けて努力
- ✓ 地球温暖化削減目標の実現に貢献
- ✓ 気候変動の影響を受けない低炭素成長の実現

文化・スポーツ・観光省のタスク

- ✓ 生活文化、環境に配慮したライフスタイル、環境や地域社会に配慮した観光商品の開発に関するプログラムの策定
- ✓ 観光地域や観光地におけるグリーン成長を指向した観光開発モデルを構築し、適用
- ✓ 観光事業施設に対するグリーンラベルの基準を策定し、ラベル付けを実施



(3)持続可能な観光に関する主要課題

地方分散

環境・文化財の保護と観光の両立

観光分野における環境への対応

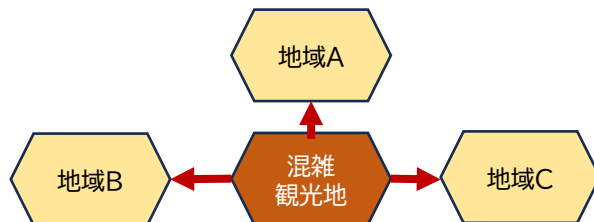
- ✓ 主要観光地はオーバーツーリズムに直面
- ✓ ピークシーズンだけを考えると、主要観光地のほとんどで交通問題が生じ、空港、埠頭、観光地等で過密状態となり、大きな負荷がかかっている

オーバーツーリズムの主な原因

- ✓ コロナ後の観光ブーム ※一時的
- ✓ 観光活動の季節性(ハイシーズン/オフシーズン)
- ✓ インフラの限界
- ✓ 目的地での非効率的な収容力管理
- ✓ ゲストを規制する合理的な計画がない
- ✓ 多様性の無い商品

提案

地方誘客の促進



正しく管理されなければ・・・

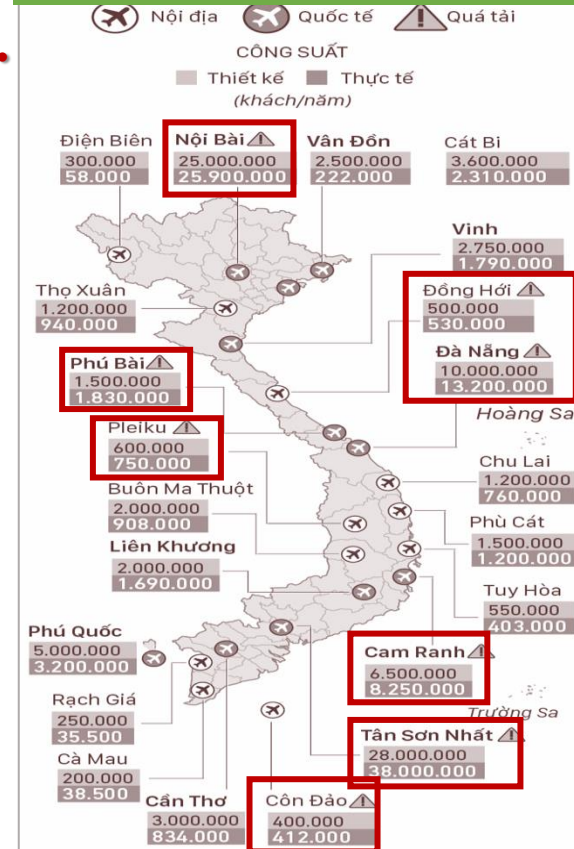
影響

- ・観光体験の価値が低下
- ・旅行先の商品やサービス品質の低下、観光客は支払った金額に値する商品やサービスを受けられなくなる
- ・観光地のアイデンティティ価値とイメージの低下、観光地の競争力に影響



Quang Ninh

ベトナム入込状況





(3)持続可能な観光に関する主要課題

地方分散

環境・文化財の保護と観光の両立

観光分野における環境への対応

- ✓ 遺産の管理と観光開発に関する法的整備、地域の専門人材の不足、低い住民意識、多様性と高品質を備えた遺産観光の商品・サービス提供、遺産地域へのインフラ整備、訪問者のマナーなどの課題

文化的遺産観光の開発に関する課題

- ・政策メカニズムがまだ同期していないため、遺産管理と観光開発が困難になっている。
- ・観光開発のための文化遺産活用に関する多くの政策やプロジェクトは効果がない。
- ・記録遺産や観光開発のための記録遺産活用に関する規定がない。

遺産への投資誘致には多くの欠点があり、多くの場所で遺産を保存することは遺産を破壊し、そのオリジナリティを失わせる。調査、統計、遺産評価には限界がある。

文化遺産観光の特性上、地域人材は質・量ともにまだ十分ではない。
遺産保護に対する地域住民の意識がまだ低い。

遺産観光地の商品やサービスは、多様性に欠け、創造性に欠け、依然として重複しており、品質が保証されておらず、観光客のニーズに本当に応えていない。

文化遺産管理には多くの欠点があり、観光客の過度な負荷に対する管理はまだ効果的でなく、文化遺産を圧迫する。
観光地や観光施設にアクセスするためのインフラシステムは特に山間部や遠隔地の文化資源まで連動していない。

多くの文化遺産が過度に商業化され、文化的・伝統的価値が衰退し、アイデンティティが失われている。「搾取」と「保存」の調和が難しい。

- ・遺産観光地における資源保護と環境衛生の問題にはまだ多くの限界があり、効果的に解決されていない。
- ・文化遺産に影響を及ぼす違反行為に対する厳しい制裁もない。



(3)持続可能な観光に関する主要課題

地方分散

環境・文化財の保護と観光の両立

観光分野における環境への対応

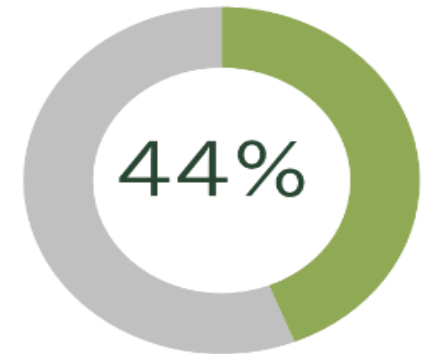
- ✓ 観光業は、社会や環境に配慮したグリーンツーリズムへの転換を進め、気候変動への対策と競争力向上を図る。COP26で2050年までに温室効果ガスの排出実質ゼロを目指すと表明
- ✓ ネットゼロツアーが登場し、グリーンツーリズムへの注目が高まっている。

事業者や旅行者等のカーボンニュートラルへの課題認識不足の問題

「サステナブルトラベルレポート2024」より

ベトナム人旅行者の意識	56%のベトナム人旅行者が持続可能性の低い旅行選択に罪悪感を感じている=44%のベトナム人旅行者は持続可能性の低い旅行選択に罪悪感を感じていない
世界的な傾向	- 持続可能な旅行選択に関する疲労感や幻滅感が増加している 47%が既に与えられた環境への損害は取り返しがつかないと感じている 35%が気候変動の深刻さを疑問視している
持続可能な旅行の障壁	41%が旅行時間は貴重すぎて持続可能性を最優先できないと感じている 46%が持続可能性を実践していない旅行先での個人的努力は無意味だと考えている
ベトナム人旅行者の前向きな姿勢	80%が訪れた場所を良い状態で去りたいと考えている 43%が旅行の社会的影響に前向きな影響を与えられると信じている 94%が今後12ヶ月でより持続可能な旅行をしたいと考えている

44%のベトナム人旅行者は持続可能性の低い旅行選択に罪悪感を感じていない



本レポートについて:

- 世界最大級の宿泊予約サイトBooking.comが行う世界34の国と地域にわたる31,000名以上の旅行者を対象に実施した調査
- 2024年度版で9年目となる





(4)政策や推進体制に関する推奨事項

政 策

目標やKPI設定、検証や改善の循環サイクルの構築、人材育成
官民や地域と実効性ある連携体制
開発指針の早期策定、独自認証の活用や国際認証の取得促進
環境アセスメント徹底、中小企業への支援策

地方分散

インフラ整備等の推進、インバウンドと国内旅行の両立への対策

環境・文化財の保護と観光の両立

開発指針の早期策定、文化財保護の財源確保

観光分野における環境への対応

ごみ処理施設等の整備指針、GHG削減へのKPI設定や取組指針

共 通

セミナー等による関係者間の共有機会



(5)持続可能な観光に関する取組事例

(事例)地方分散

(事例)環境・文化財の保護と観光の両立

(事例)観光分野における環境への対応

国家観光区

地方誘客に向け「国家観光区」という政府が定める観光地域がある。国家観光区は、観光資源、自然環境、文化的価値などが豊かで観光産業の発展に大きな可能性を持つ地域に対して与えられる(2024年5月時点で9つの国家観光区が指定)

ベトナムの国家観光区(2024年5月時点)	
観光区名	指定年
Tuyen Lam National Tourist Area(Lam Dong)	2017年
Sa Pa National Tourist Area (Lao Cai)	2017年
Nui Sam National Tourist Area(An Giang)	2018年
Tra Co National Tourist Area, Mong Cai (Quang Ninh)	2019年
Mui Ne National Tourist Area (Binh Thuan)	2020年
Hung Temple National Tourist Area, Viet Tri City (Phu Tho)	2020年
Tam Dao National Tourist Area (Vinh Phuc)	2022年
Moc Chau National Tourist Area (Son La)	2024年
Con Dao National Tourist Area (Ba Ria - Vung Tau)	2024年

このほか、2024年6月に承認された、2045年を見据えた観光システムマスタープラン2021-2030(The Master Plan on system for 2021-2030, vision to 2045)では、6つの観光地域の61の拠点が候補としてある。これにより観光客をより広範な地域に分散することが期待される。



(5)持続可能な観光に関する取組事例

(事例)地方分散

(事例)環境・文化財の保護と観光の両立

(事例)観光分野における環境への対応

ベトナム・ホイアン市 入場料等の財源確保

背景・課題

- ✓ COVID-19の影響で観光客数が大幅に減少し、文化遺産の保全と管理のための安定した財源確保
- ✓ 入場料等の徴収に対する住民意見との調整
- ✓ 団体観光客への入場料導入により、収入は劇的に増加したものの、保存にかかる費用はまだ十分でない状況が続いている

取組

住民の意見に対する対応

料金設定や徴収方法についてはさらなる議論と改善の余地がある、観光客減少及びビジネスに対する悪影響への懸念 等

対応と結果

- ・2023年5月15日、方針を修正し、団体客のみに入場料徴収制度開始(個人客の旧市街での飲食や撮影は無料)

入場料の徴収

団体観光客の
旧市街への入場料

国内観光客:
80,000VND

外国人観光客:
120,000VND

行政側の支援

民間および共同所有の修復のための資金援助

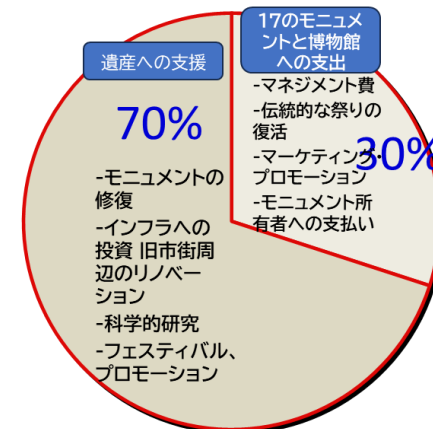
記念碑の 種類	メイン道路沿い		ロジ沿い	
	政府支援 (%)	所有者 負担(%)	政府支援 (%)	所有者 負担(%)
特別	60	40	75	25
タイプ1、2	45	55	65	35
タイプ3、4	40	60	60	40

取組の有効性

入場料収入の増加&修復等への活用

- ・2023年5月の入場料厳格化から7か月で160万以上のチケットが販売され190億ドン(約1億142万円)(2019年の約70%)収入
- ・観光産業全体の総収入(4,100億ドン以上)の約4.6%。

チケット収入の使途割合



旅行者等への呼びかけ

入場料が世界文化遺産の保全に貢献することを説明するホイアン文化スポーツセンターの公式ウェブサイト



出典:ホイアン文化スポーツセンター公式ウェブサイト

出典:第2回日越観光・人的交流イベント
クアンナム省 文化スポーツ観光局 ソン副局長資料

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION



(5)持続可能な観光に関する取組事例

(事例)地方分散

(事例)環境・文化財の保護と観光の両立

(事例)観光分野における環境への対応

ベトナム・サパ市 電気トラム導入

背景・課題

- ✓ 観光客の増加により私有車の使用が増加し大気汚染が発生し、地域の生態系を乱す
- ✓ 気候変動の影響で自然災害のリスクが増加し、町の経済と生活に大きな影響
- ✓ 週末や祝日のピーク時や年間を通じて祭りのシーズンには、混雑と炭素排出が増加

取組

計画策定と規制の導入

- ・町は気候変動対策計画を開発し、環境に配慮した低炭素の経済への発展を目指す
- ・化石燃料からクリーンエネルギーへの移行と効率的なトラムルートの実施により、温室効果ガス排出を大幅に削減する計画を有する
- ・都市計画、土地利用、交通統合に関連する重要な規制を施行し、環境に配慮した移動を促進

電化トラムの導入

電気トラムシステムの開発し、2025年までに150台の電気トラムを交通ネットワークに統合し、重要な目的地を繋ぐ戦略的に設計されたルートを目指す

取組の有効性

環境に配慮した観光地としての評価向上

電気トラムシステムの開発により、公共交通と観光を革新し、環境に配慮した観光地としての評価を高めることができる

将来性

包括性と移動の容易さを強調し、すべての人々にとってのより環境に配慮したアクセス可能な未来の道を開くことを目指す



第三章 | 調査内容:インド

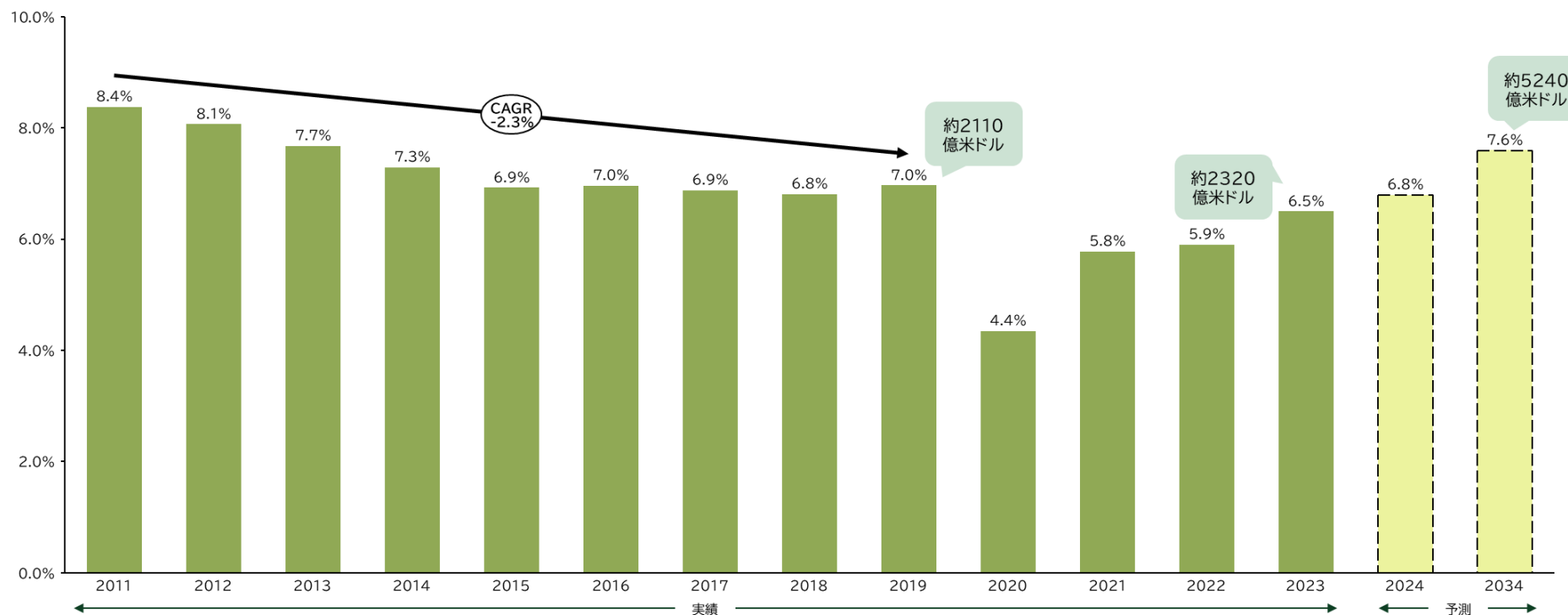




(1)基礎情報

- ✓ 2023年の国全体のGDPに対する観光産業の割合は6.5%まで回復（2019年7.0%）
- ✓ 2034年までに観光産業のGDPは7.6%を占めると予測

インドにおける観光産業のGDP貢献額の推移（総数、単位：%）

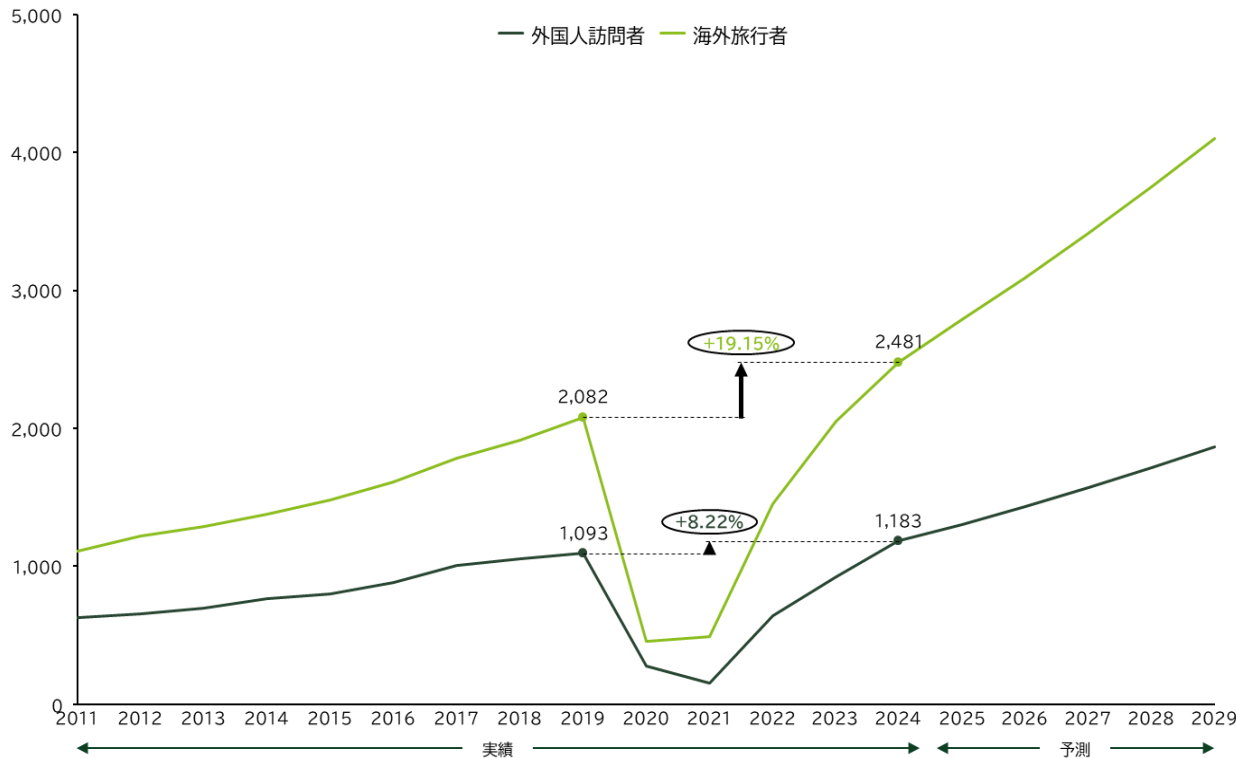




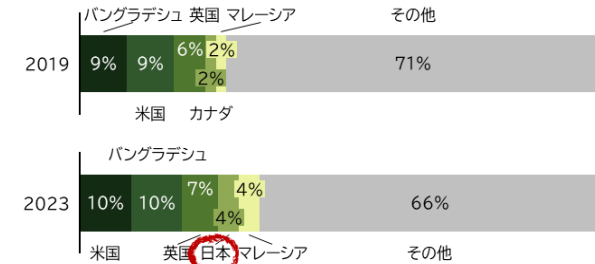
(1)基礎情報

- ✓インドへのインバウンド観光客数は2024年に約2481万人まで成長する見込み
- ✓インド人の海外旅行者数は1183万人まで成長し、2029年までに2000万人弱まで成長する予測

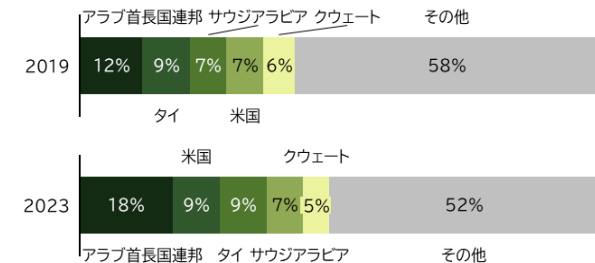
インドにおける国際旅行者数の推移 (総数、単位:万人)



外国人訪問者のソースマーケット



海外旅行者の目的地





(2)持続可能な観光に関する政策

- ✓ 経済成長の発展を重視する位置づけから、持続可能性も重視する形で、インドは世界一の持続可能な観光目的地とすることを目指している
- ✓ 2022年に新しい国家観光政策の最終草案が公開されるとともに、持続可能な観光に特化した国家戦略を策定

インドにおける観光戦略の一覧

2002

2022

インド国家観光政策

ドラフト版

インド国家観光政策

目標

観光を国の経済成長の主要分野と位置付け、官民連携(PPP)を促進し、雇用創出と他産業との連携を通じて経済統合を促進することを目的

1. 観光客数、滞在期間、消費額を増加させ、インドを年間を通じて訪れる観光地として位置付けることで、観光がインド経済に貢献
2. 観光業界における雇用や起業の機会を創出し、熟練した労働力を確保
3. 観光業の競争力を強化し、民間投資を誘致
4. 国の**文化**的および**自然資源**を保護・強化
5. **持続可能**で、責任ある包括的な観光開発を促進

項目	2030年	2047年
外国人旅行者数(万人)	2,500	10,000
国内旅行者数(万人)	400,000	1,500,000
外貨獲得(億US\$)	560	4,000
観光収入のGDP(億US\$)	2,480	40,000
雇用創出(万人)	13,700	40,000

インドにおける持続可能な観光の国家戦略

1. 環境の持続可能性の推進
2. 生物多様性の保護
3. 経済的持続可能性の促進
4. 社会・文化的持続可能性の促進
5. 持続可能な観光の認証制度の導入
6. IEC(情報教育コミュニケーション)と能力開発
7. ガバナンス(統治)の強化



(3)持続可能な観光に関する主要課題

地方分散

環境・文化財の保護と観光の両立

観光分野における環境への対応

- ✓ 観光地への複合的でシームレスな交通接続性の開発
- ✓ 人的流動を第2、第3の都市へ分散

インドの持続可能な観光の課題と関連政策

道路

- ・信号のない高速移動回廊
- ・沿道の違法な占拠を解消し、混雑を緩和

鉄道

- ・観光地等の接続性の向上
- ・観光地を結ぶ列車運行本数の拡大や、高級～低予算まで多様な製品の提供

第2、第3都市
への分散

航空

- ・外国人旅行者を主要国際空港から他の目的地や空港に分散
- ・国内航空交通を第2、第3都市への分散



(3)持続可能な観光に関する主要課題

地方分散

環境・文化財の保護と観光の両立

観光分野における環境への対応

- ✓ 遺跡に対する損傷や体験の質の低下を及ぼす観光客の増加、観光客のマナー
- ✓ 観光資源の効率的な利用には、地域社会と観光産業のニーズ間での公平なバランスを確保し、観光客と観光企業の消費パターンを変えるための環境管理システムの確立が必要

インドの持続可能な観光の課題と関連政策

地元文化の尊重と文化財の保護

- 歴史的・文化的遺跡は、その管理と保全のために訪問者からの収入に依存している反面、同時に、その構造を損傷し、訪問者の体験の質を低下させる恐れのある観光客の増加を懸念
- 地域文化に基づく収入源を提供することで、観光はコミュニティが自らの文化遺産をより高く評価することを促すことができる。しかし、観光客に向けて文化や遺産を宣伝する際に、それらの偽造や劣化に対して注意を払うよう呼び掛けることが重要

環境の保護と生物多様性

- 生物多様性の保護は、環境の持続可能性の重要な部分。自然地域、生息地、野生生物の保全を支援し、それらへの損害を最小限に抑える必要がある
- 観光資源の効率的な利用が地域環境とホストコミュニティの福祉、そして地球規模の資源の維持の両方にとって重要であることから、地域社会と観光産業のニーズの間で公平なバランスを確保する必要
- 観光における資源効率性は、主に観光客と観光企業の消費パターンを変えることで達成できる。企業は、影響を最小限に抑え、継続的な改善のプロセスを推進するために、環境管理システムを確立する必要



(3)持続可能な観光に関する主要課題

地方分散

環境・文化財の保護と観光の両立

観光分野における環境への対応

- ✓旅行、輸送、宿泊、観光関連活動におけるエネルギー消費の増加と化石燃料への依存は、将来のビジネス成長に対する脆弱性と不確実性を増大させ、温室効果ガス(GHG)排出と気候変動に重要な影響を与える
- ✓GHG排出量削減に向けエネルギー使用量削減と再生可能エネルギーへ転換

インドの持続可能な観光の課題と関連政策

政府の取組

- ・観光関係者と協力して、供給源と消費の両方に影響を与え、排出量削減と経済的利益につながる膨大な機会を活用するために以下の取り組みを行う：
 - ①断熱性を最大化し、自然の熱、光、換気を利用する観光施設の設計と材料の使用を促進
 - ②観光地に再生可能エネルギー源を提供
 - ③個々の観光企業が自らのエネルギー供給を生成するか、再生可能源からの補完を奨励
 - ④照明、給湯、調理などにエネルギー効率の高いプラントや機器の使用を奨励
 - ⑤資源効率の高い輸送オプションを促進
 - ⑥訪問者にエネルギーの責任ある使用を説得
- ・観光企業は、観光企業および訪問者による大気、水、土地の汚染および廃棄物の発生を最小限に抑えるために、規範と基準を遵守することが求められる。



(4)政策や推進体制に関する推奨事項

政 策

透明なKPIと長期評価の導入

州主体の推進と連携強化がカギ

認証制度の定期的更新と実効性の強化が急務

地方分散

有名観光地依存の脱却

先行投資による観光促進

シームレスな交通接続性の開発

共 通

セミナー等による関係者間の共有機会



(5)持続可能な観光に関する取組事例

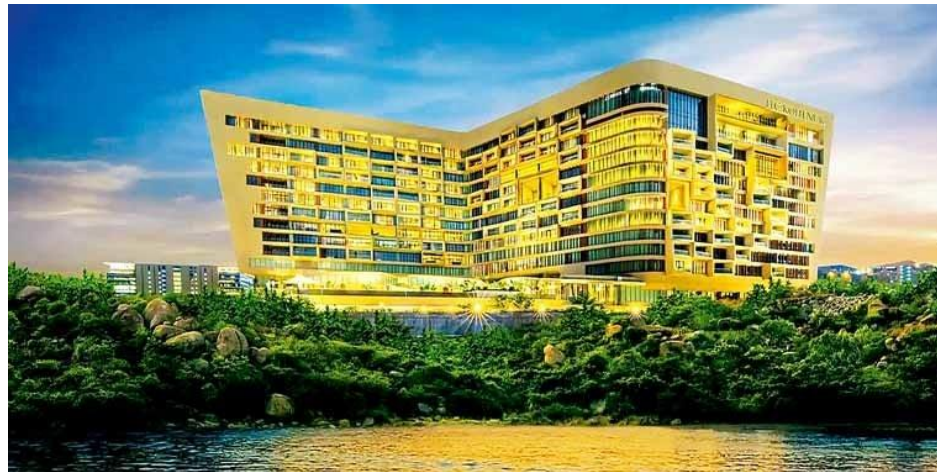
(事例)地方分散

(事例)環境・文化財の保護と観光の両立

(事例)観光分野における環境への対応

宿泊業者独自のとりくみ

ITCホテルズの環境にやさしいラグジュアリー体験



- ・高級ホテルチェーンであるITCホテルズは、地球環境に配慮したラグジュアリー体験の普及に努める一環として、「レスポンシブル・ラグジュアリー (Responsible Luxury)」という理念を採用。
- ・各施設では、再生可能エネルギーの利用、廃棄物管理システムの導入、使い捨てプラスチック製品の排除や浄水システムの導入といった節水への取り組みなど、さまざまなグリーン・イニシアチブを実施。

The Orchid Hotel Mumbai Vile Parle



<エネルギー効率への取組>

- ・天井に天窗を設置し、アトリウムに自然光を取り入れることで、ロビーや廊下の照明に使用するエネルギー量を削減
- ・館内の照明には、CFLやLEDなどのエネルギー効率の高い照明を採用
- ・再生可能エネルギーの活用として、屋上に設置されたソーラーパネルを通じて太陽エネルギーを利用
- ・客室にはマスター・コントロール・パネルが設置されており、エコ・ボタンを押すことで空調温度を2℃上昇させ、エネルギー節約を促進

第四章 | 今後の進め方

2025年度

- ✓2024年度に引き続き、タイ、ベトナム、インドの観光当局と継続的に意見交換を行い、持続可能な観光の実現に向けた課題・改善策の更なる研究調査を進める。
- ✓2024年度に引き続き、タイ、ベトナム、インド以外の東南アジア地域・南アジア地域から2～3国ピックアップして同様の調査を行う予定

ご清聴いただき
ありがとうございました

